

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 穴吹デザインカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養 専門課程	グラフィックデザイン学科	夜・通信	1094 時間	160 時間	
	マンガ・コミックイラスト学科	夜・通信	1358 時間	160 時間	
工業専門課程	トータルインテリア学科	夜・通信	1444 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://www.anabuki-college.net/information/info.php">http://www.anabuki-college.net/information/info.php</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 穴吹デザインカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.anabuki-college.net/information/info.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	令和元年5月 ～令和3年5 月	コンプライアンス
非常勤	元銀行頭取	令和元年5月 ～令和3年5 月	企画・調整
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 穴吹デザインカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、デザイン業界団体や企業等に依頼した委員からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する</p> <p>※シラバスの主な記載項目</p> <p>(1) 科目名 その授業の科目名を記載します</p> <p>(2) 学科/学年 授業を行う学科名および学年を記載します</p> <p>(3) 年度/時期 授業を行う年度および時期(前期・後期)を記載します 単位制の場合は標準履修年次を記載します</p> <p>(4) 授業形態 講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します</p> <p>(5) 授業の回数 授業を行う回数(コマ数)を記載します</p> <p>(6) 単位数(時間数) 学則に記載している時間数を単位換算したものを記載します 講義: 15時間を1単位とする 演習、実習: 30時間を1単位とする 時間数は90分授業の場合、1コマ=2単位時間 50分授業の場合、1コマ=1単位時間</p> <p>(7) 必須・選択 必須授業もしくは選択授業について記載します</p> <p>(8) 授業担当者 授業を担当する教員名を記載します 複数の教員で担当する場合は全員の氏名を記載します また、実務経験がある教員の場合はその旨を記載します</p> <p>(10) 授業の目的・ねらい</p>

<p>授業の趣旨を記載します          授業を行うのは教員なので、教員を主語として具体的に記入します          また、実務経験がある教員が授業を行う場合は、実務経験をどのように活かして授業を行うかを記載します</p> <p>(11) 授業終了時の達成課題（行動目標）          授業終了時点において学生が修得している必要がある学修成果について記載します          目標を達成するのは学生なので、学生を主体として記載します</p> <p>(12) 授業の内容          授業の各回におけるテーマおよび内容について具体的に記入します          ※学生の理解度・実態に応じてやむを得ず変更する可能性もあります</p> <p>(13) 準備学習          授業に臨む前に行っておくべき内容を記載します</p> <p>(14) 使用テキスト          使用するテキストや参考書等を記載します</p> <p>(15) 単位の認定方法及び基準（試験等の評価方法）          評価方法について記載します          また、評価基準についてそれぞれの項目の評価割合を記載します</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.anabuki-college.net/information/info.php">http://www.anabuki-college.net/information/info.php</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【学生便覧より抜粋】

(成績の評価)

- ①各科目の成績は、原則として年2回の期末毎に、「評定」の形で評価する。  
注) 同一名称であっても、末尾にⅠ・Ⅱの記号が付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。
- ②成績の認定は、期末試験の他、出席率・確認テスト・課題・レポート・検定取得状況・平常の授業態度・本人の向上心等を考慮し総合的に判定する。
- ③成績評価はA、B、C、Dの4段階とし、A、B、Cを合格とする。  
A＝科目に対する理解及び日常の学習状況が極めて優秀な者。(80点以上)  
B＝科目に対する理解及び日常の学習状況が良好な者(70点以上79点以下)  
C＝科目に対する理解及び日常の学習状況がやや劣る者(60点以上69点以下)  
D＝科目に対する理解及び日常の学習状況が著しく劣る者(60点未満)
- ④前・後期末試験  
前・後期末試験については必ず受験しなければならない。公欠以外の欠席は全て再試験となる。また公欠の場合は追試験を受験しなければならない。
- ⑤再試験
  - a. D評定の科目を持つ者は学習の機会を与えて再試験を行う。
  - b. 再試験を受験する場合は、再試験料チケット(1000円/科目)を事前に統合事務局の発券機にて購入しなければならない。
  - c. 再試験に合格した者は、評定をCとする。
  - d. 再試験の実施は1度のみとする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【学生便覧より抜粋】

(成績に係わる指標の算定方法)

学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合格した上でその平均点を算出する。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

[http://www.anabuki-  
college.net/information/info.php](http://www.anabuki-college.net/information/info.php)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【学生便覧より抜粋】

(トータルインテリア学科)

快適な住まい、空間をデザインするインテリア・ビジネスのスペシャリストとしての、基礎知識・技術を習得し、建築士、インテリアコーディネーター、ディスプレイデザイナー、家具デザイナー等、業界の第一線で活躍できる人材の卒業を認定する。

(グラフィックデザイン学科)

デザインツールによる実習を通して、デザイナーとしての基礎的な知識と技術を習得し、豊かな創造力と確かな表現力を身につけた人材の卒業を認定する。

(マンガ・コミックイラスト学科)

マンガのストーリー構成、企画、表現を学び、マンガ雑誌に投稿できるまでの知識、技術を身につけた人材や、様々な画材の基礎的な技術を修得し、表現力豊かなイラスト制作ができる人材の卒業を認定する。

(卒業認定の条件)

① 全科目の成績評価がすべてC以上であること

② 年間出席率 80%以上

※原則として上記条件をすべて満たした者。

ただし、相当の事由がある場合には、卒業判定会議において卒業の否可を決定する。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

[http://www.anabuki-  
college.net/information/info.php](http://www.anabuki-college.net/information/info.php)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校 穴吹デザインカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/kessan-kansa.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592176914">https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/kessan-kansa.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592176914</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/kessan-kansa.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592176914">https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/kessan-kansa.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592176914</a>
財産目録	<a href="https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/zaisan.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592177291">https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/zaisan.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592177291</a>
事業報告書	<a href="https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/jigyohoukoku.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592177303">https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/jigyohoukoku.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592177303</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/kessan-kansa.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592176914">https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/kessan-kansa.pdf?_bdlid=3McJao.n4-L00r.1592176914</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	グラフィックデザイン学科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,756時間	240 単位時間	1,516 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1756 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		34人	0人	4人	9人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、デザイン業界団体や企業等に依頼した委員からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(成績に係わる指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合格した上でその平均点を算出する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(卒業認定の条件)</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	13人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 印刷業界、デザイン事務所			
(就職指導内容) 学生との個別面談や就職指導などを、就職キャリアセンターと教務部が一体となっていく			
(主な学修成果(資格・検定等)) ※R1年度 色彩検定 3級 88%合格 Illustrator クリエイター能力認定試験 85.7%合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	1人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		



(中退防止・中退者支援のための取組)  
問題発見のためのアンケート実施と、学生本人・保護者を交えたガイダンス実施

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	マンガ・コミックイラスト学科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,756時間	144 単位時間	1,612 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1756 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		40人	1人	6人	7人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、デザイン業界団体や企業等に依頼した委員からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>（成績に係わる指標の算定方法）</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合格した上でその平均点を算出する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>（卒業認定の条件）</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	13人 (81.2%)	3人 (18.8%)
(主な就職、業界等) 印刷業界、デザイン事務所			
(就職指導内容) 学生との個別面談や就職指導などを、就職キャリアセンターと教務部が一体となって行う			
(主な学修成果(資格・検定等)) ※R1年度 色彩検定 3級 95%合格 漫画能力検定 2級 100%合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 問題発見のためのアンケート実施と、学生本人・保護者を交えたガイダンス実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	トータルインテリア 学科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,756 時間	264 単位時間	1,492 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1756 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		48人	3人	3人	10人	13人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、デザイン業界団体や企業等に依頼した委員からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び

<p>学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(成績に係わる指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合格した上でその平均点を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(卒業認定の条件)</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
建築施工会社 インテリアショップ			
(就職指導内容)			
学生との個別面談や就職指導などを、就職キャリアセンターと教務部が一体となって行う			
(主な学修成果(資格・検定等)) ※R1年度			
色彩検定 3級 83.3%合格			
インテリア設計士資格検定試験 2級 95.8%合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

45 人	3 人	6.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 問題発見のためのアンケート実施と、学生本人・保護者を交えたガイダンス実施		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	諸費用	備考 (任意記載事項)
グラフィックデザイン 学科	160,000 円	1,000,000 円	270,000 円	
マンガ・コミック イラスト学科	160,000 円	1,000,000 円	270,000 円	
トータルインテリア 学科	160,000 円	1,000,000 円	270,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 公表URLアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法 <a href="http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2018/adk-rating1-2.pdf">http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2018/adk-rating1-2.pdf</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>① 関係者ならでの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける</p> <p>② 自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する</p> <p>③ 結果として、職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画を立案し、PDCA サイクルを回し続ける</p> <p>【学校関係者評価委員会規定より抜粋】 (委員の委嘱等) 委員会を構成する委員は、5名以上とし、本校の職員以外の者で次に掲げる者のうちから、校長が委嘱する。</p> <p>(1) 保護者 (2) 本校の卒業生 (3) 地域住民 (4) 企業関係者 (5) 高等学校関係者 (6) その他教育に関する有識者</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別

香川県デザイン協会 協会員	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	業界団体委員
あなぶきホーム株式会社	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	企業等委員
株式会社穴吹カレッジサービス 広告制作部 穴吹デザインプラス	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	企業等委員
株式会社ウイザード	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	企業等委員
株式会社講談社 週刊ヤングマガジン編集部	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	企業等委員
	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	元高校関係委員
	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	保護者代表委員
	令和2年4月1日～令和3年3月31日 (1年間)	卒業生代表委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2018/adk-rating2-2.pdf">http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2018/adk-rating2-2.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www.anabuki-college.net/adk/">http://www.anabuki-college.net/adk/</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人



(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。